

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇全教会布教推進月間 終了◇

一手一つに 世界たすけの 歩みを進めよう

をテーマに、9月は交流布教、大教会にをいがけ、

全教一斉にをいがけデーを勇んでつとめさせて頂いた。



大教会のHP がご覧になれます！

月報には掲載されない写真もいっぱいです！

ぜひ一度ご覧下さい♪

網走月報

発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会九月月次祭

大教会9月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後、
「祭典終了後、青年会本部委
員・瀬戸陽一先生をお迎えし
て、あらきとうりよう講話を
拝聴させて頂き、お話を通し
てちばの理を頂戴させて頂き
ますこと心より御礼申し上げ
ます。私共を始め教会長、用



瀬戸 陽一 先生

青年会 あらきとうりよう講話

木一同は、全教会布教推進月
間の最中でありますので、に
をいがけ・おたすけを常に心
に置き日々のつとめに励ませ
て頂き、月末に控えている全
教一斉にをいがけデーでは、
この世を治めて頂く真実の教
えを一人でも多くの方の胸へ
と伝えさせて頂く所存でござ
います」と奏上した。

「その後座りづとめ・十二下
りのてをどりがつとめられ、
参拝者は共に勇んでみかぐら
うたを唱和した。」

本日はあらきとうりよう講
話とありますが、現在青年会
本部が取り組んでいること、
そしてこれから先目指してい
くものについて、私の実体験
も交えながら、お話させて頂
きたいと思います。

現在の天理教青年会本部の

掲げている基本方針は「心を
澄ます毎日。くほこりを減
らし、誠を増やす」です。

確かに、神様は心を澄ます
ということの大切さは、おふ
でさきなどの原典でも多く語

天理教青年会本部では、こ
れまで様々な基本方針のもと、
活動を展開してきました。

少し前だと、「世界たすけ

への挑戦」。もう少し遡って、
今から十年前、教祖百三十年
祭の頃は「たすけの渦を巻き
起こそう」。もつともつと遡

れば、「三千万軒にをいがけ」

という、当時の日本の家の数、
戸数が大体それくらいであり
ましたので、日本すべての

人々にをいをかけさせても
らおう！ そういうものすご
い大きな動きだったのだと思

います。先生方の中にも、当時を経験されている方もいらっしゃるのではないでしようか。

この「世界たすけへの挑戦」「たすけの渦を巻き起こそう」「三千万軒にをいがけ」は、すべて布教、おたすけに関する基本方針や活動です。

そうなんです。青年会はこれまで、ずっと布教おたすけの側面をより色濃く前に出して活動を展開して参りました。

また、先生方の中には前回の百三十年祭をよく覚えていらっしゃる方も大勢おられると思います。どんな年祭だったでしょうか。全教をあげて、一人でも多くの人をおぢばへ、初席者を何人御守護頂けるかが勝負！

私も、にをいがけが大好きですので、布教の家に行かせて頂いた時なんかは、もうその日駅ではじめて会った人に「今からおぢばへ帰りましょう！」なんて、勢いをもって布教に歩かせて頂いておりました。

●コロナ時代を経て

そこから時は流れて、今か

ら約五年半前。世界を変えてしまうような出来事が起こりました。そうです。コロナウィルスの大流行です。

すべてのことがストップして、思うように身動きもできない。その時に青年会長・中山大亮様は、自身のこれまでや、お道全体を振り返る機会を得て、大きくは次の二つのことに気づかれた、とお話下さっているんです。

まず、一つ目が「行事」中心の信仰から、「日常」中心の信仰へ。

お道の中にはたくさんの行事があります。もちろん、それぞれ行事は素晴らしいし、決してそれを後ろ向きにとらえているわけではございません。しかしながら、段々と、行事を消化していくことに追われたりして、その行事に参加すること自体が、信仰しているというような気持ちにさせてしまっている、そんな部分があったのかもしれない。

本来は、そういった行事は、そのこと通じて、勇ませてもらったり、信仰的な気づきを得て、それを日常に生かしていく為にあるもの。より日常

が輝くものになるものです。

信仰を深めるための手段だった行事が、それに参加する＝信仰という、目的になっってしまった部分はないだろうか。そんな疑問を青年会長様はもたれた。

最近特に、お道を信仰する中でも、働かれている方が大変多くなってきたように思っています。道事務者は大分と減っているように感じます。

しかしながら、そういう働いている人が行事に参加できなかったら、信仰できないのか？ と言ったら、決してそんなことないですよ。信仰を深める機会としての行事はもちろん大切ですが、信仰はそういったものを含めた「日々」である、という気づきです。

そしてコロナを通しての青年会長様の気づき、二つ目が、「伝える」から「伝わる」です。これは私自身の反省でもあるんですが、たとえば布教するにおいても「伝えよう、伝えよう」という意識が、とても強かったように思います。もちろん、布教においてはそれも大切です。

しかしながら、「にをいがけ」という言葉を考えた時に、をいを自分からかける、というよりも、相手方が自然と嗅ぎ取るものですよ。そうすると、我々は、よりお道の人としてのよりよいにをいを身に着ける、ということが大切になってきます。

それは、布教に歩いている時だけではなく、むしろそれ以外の時、日常生活の中から醸成されていくものではないでしょうか。

この二つの気づきは、信仰は日々という点で大きく共通しているんです。

●かしの・かりものの教え

今から約三年前。ちょうどコロナが落ち着きかけたころ、三年ぶりに青年会総会が本部神殿で開催されました。各分会三名と対象者を絞っての開催だったんです。

その、第96回天理教青年会総会での青年会長様のご挨拶の中で、次のようなお話をされました。

『私はこの三年間、「かしの・かりもの」の対話によって、考え方を百八十度変えて

めさせて頂きます。しかしながら、この心を澄ます毎日を通して頂くお互いは、その日にパッと書いて提出して、その人のたすかりを析る、だけではなく、ぜひ青年会員ではなくとも、今日改めてこのおたすけ願いを記入して、その人の為に、たすかりの為に、10月25日、また大祭までの日々を、心を澄ます毎日を共に通らせて頂けたら素敵だと思っんです。

たすかつて欲しい人、思い浮かべて過ごす日々、またその出来事を通じて、神様の思いを分かろうとする日々は、心を澄ます日々をより力強いものにしてくれるのではないのでしょうか。

●たすかりに向けて

本部の青年会でも、実際にこのおたすけ願を記入して、それをもとに対話をしようという話になったのです。

普段の私だったら、にをいがけで出会った相手とか、また身上がちな信者さんとか。そういった方々の名前を書いていたと思います。しかしながら、実際に、こ

もらいました。かしの・かりものをテーマにした問いと対話を繰り返すことで、自身の信仰が深まっていき、教えを身に着けて、それに基づく生き方に自信を変化させていくということが大切だと悟ったのです。』

先ほどの二つの気付きは、教えに基づく生き方をしていくこと、またそう努めていく中で、親神様の思し召しに敵うよふばくに段々と近づいていく歩みをお示し下さったように感じます。

そして、教えに基づく生き方の「教え」とは、特に「かしの・かりもの」に基づいた生き方だというのが、ご挨拶での趣旨です。

●心を澄ます毎日を

なんで信仰しているんですか？ と聞かれた時に、この、かしの・かりものの教えのお陰で、喜べなかったことが喜べるようになったんです、とか、毎日の何気ないことに感謝できるようになったんです！ こうやって日常が変わったんです！ 本心に信仰ってありがたいです！ と

自信をもって答えられるようになっていけるように。教えを治め、自分の生活、生き方に映していく。

朝起きた瞬間から夜眠るその瞬間まで、24時間、365日を、信仰に基づいた生き方ができているか。それこそが信仰者として大切なのだと思います。

さらに言えば、信仰は当たり前ですが、働いている方も道専務の方も、どんな立場の人も信仰できるものです。この信仰は「日々」であるという

こと、そして、教えに基づく生き方で自身ををやる目にかなうものにしていく歩みを現したものが、まさにこの基本方針である「心を澄ます毎日」なんです。

たしかに、求道面での活動は形に表しにくく、活動化が難しい、モチベーションの維持が難しいなどの課題も抱えています。しかし、「心を澄ます毎日」は、どんな環境の中、どんな教会の方針の下でも、自分の心ひとつで実践できる基本方針である。ということを今日の機会にしっかりとお伝えしたいのです。

●心を澄ました先には何があるのか。

10月25日(土)13時から本部中庭で開催されます、第99回天理教青年会総会についてお話をさせて頂きます。

この総会のテーマは『たすかり』です。

先ほどまで、私は基本方針「心を澄ます毎日」についてお話ししました。この流れをお聞きになられた方は、もしかしたら、急に「たすかり」というテーマが出てきたなと感じる方もおられるかもしれません。

しかしながら、このテーマは、本年1月の青年会本部例会での青年会長様のご挨拶に端を発します。それは次のようなご挨拶でした。

『何のために心を澄ますのか。心を澄ます毎日の先には何があるのか。結論を先に言うと、それは不思議なたすかりです。私は心を澄ます毎日を通して先には、必ず不思議なたすかりを見せて頂けると信じています。神様はきっと私たちの澄んだ心に入り込んで、お働き下さると思うのです。』心を澄ますことは決して目

●おたすけ願カードについて

第99回天理教青年会総会では、おたすけ願に、たすかつて欲しい人の名前、たすかって頂きたいのか、またその為に自分が何をできるのか、を記入して、神様の前に供えさせて頂いて、青年会長様を芯に、お願いのおつとめをつと

の三項目を記入します。

しかし、心を澄ます毎日を送る我々にとって、大切なことは、このおたすけ願には書かれていませんが、たすかつて欲しい人を通じて、またそこからお見せ頂く様々な出来事を通して、「神様の思いを分かろうとすること」ではないでしょうか。

のおたすけ願が配られて最初に思い浮かんだたすかつて欲しい人の名前は、身近な家族のことでありました。それまでは、自身の成人の未熟さから、その身近な人に対して、不足の心が勝ち、たすかつて欲しいという気持ちを持つことができませんでした。

しかしながら、このおたすけ願を通じて、神様の思いにアンテナを向け、さらに自分の心に矢印を向けることで、はじめて本当にたすかつて欲しい人のために、心を込めたお願いのおつとめをさせて頂くことができました。

- ①たすかつて欲しい方の名前、
- ②たすかつて頂きたいこと
- ③あなたにできることはなんですか？

大教会9月の動き

1日 役員会会議
おはなし食堂

6日 縦の伝道日

7日 網走支部例会会場
役員会会議

9日 教祖140年祭網走おた
すけ委員会会議。布
教部例会。育成部
会。婦人会例会

10日 月次祭。青年会あ
らきとようりよう講話。
役員会会議。連絡会。
大教会一斉にをいが
け

11日 秋季霊祭

12日 会長、大畑重光、啓
子の霊様の年祭祭主
つとめる。会長、札
幌方面直轄信者まわ
り。（15日まで）縦
の伝道日

13日 修養科事前研修会よ
ろこびセミナー（17
日まで）

14日 網走支部婦人会例会
会場

15日 神殿上段、参拝場、
廻廊すす払い

17日 縦の伝道日

20日 縦の伝道日

21日 縦の伝道日

立教188年人のご守護心定め			
初席者	ようぼく	修養科修者	教人
51名	23名	18名	6名
成果（9月末現在）			
16名	6名	4名	0名

23日 会長、おぢばがえり。
詰所23会

24日 会長、本部神殿奉仕
つとめる

26日 本部月次祭遙拝。会
長、教区主事会出席。
結城和広役員、本部
神殿奉仕つとめる

27日 会長、本年秋季霊祭
参拝、かなめ会出席。
藤山重善役員、本部
神殿奉仕つとめる

28日 全教一斉にをいがけ
デー（30日まで）
大教会一斉活動日。
直轄世話人会

29日 直轄世話人会

30日 みそか会

司 会	指 図 方	祭 主	胡 弓	三 味 線	琴	小 鼓	す り が ね	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぼ ん	笛	地 方	てをどり										
													三 澤 由 美 子	青 山 聖 子	澤 田 裕 子	桐 谷 善 広	瀨 川 定 自	結 城 和 広	前				
小 松 篤 志	藤 山 重 善	大 教 会 長	瀨 川 祐 子	三 幣 美 代 子	大 教 会 長 夫 人	栗 林 徳 正	大 山 雅 人	藤 山 重 善	大 教 会 長	小 松 篤 志	三 幣 敦 志	遠 藤 明 広	小 針 敏 文	三 幣 正 志	三 澤 由 美 子	青 山 聖 子	澤 田 裕 子	桐 谷 善 広	瀨 川 定 自	結 城 和 広	前		
賛 者	者	扨 者																			半		
村 井 実	奥 野 直 治	桐 谷 善 広	三 幣 正 志	栗 林 直 美	丸 山 の り 子	新 川 千 穂 子	澤 田 旬 治	清 水 知 幸	遠 藤 浩 二	在 原 道 彌	新 川 正 美	三 澤 春 雄	真 壁 正 教	村 井 実	桐 谷 沙 也 加	菅 原 真 弓	三 幣 有 子	奥 野 直 治	永 井 康 幸	清 水 信 喜	後 半		

秋季霊祭は9月13日午前10時より神殿の儀が行われ、ておどり終了後、祖霊殿の儀が執行された。この度、陽泰初代会長・桐谷教子様の霊様が新たに合祀された。

秋季霊祭

立教188(令和7)年人のご守護成果表（9月末現在）													
教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人
						当月	累計						
直轄	3	15	2			15	93	誠央					1
美幌							3	常道					2
女満別	1	1				2	39	徳道		3			1
斜里町							1	満金		1			3
釧路厚				1			11	網安		1			1
武士呂							8	オホーツク	2	2			11
常呂		1				10	41	網徳					2
旭網	1	2				4	16	栗沢		6	1	1	20
御料		2	1				5	徳元		1	1		11
東藻琴							0	網盛					3
陽光	1	1				2	18	網新	1	5		2	12
呼人						1	9	網葉					1
誠陽		1					4	網陽					3
網栄		1					4	誠網	3	7	1		1
實東	2	2				1	32	網次	1	5			3
東網	1						7	網昇					8
宗稚						1	14	勇走					2
						詰所							
初席	16	10	57			6		修卒	4				
教人								教人					
婦参者								婦参者					
当月	16	10	57			6		当月					47
成果							651	成果					

9月 月次祭 9/12(金)									
〈参拝者数 約90人〉									
神職講話	賛者	指図方	扨者	祭主	祭員				
	藤山重善	三村奥野井野直治	結城和広	斎瀬川芳徳	大教会長				
胡三味線	小すりがね	拍子木	ちゃんぼん	笛	てをどり				
澤田山裕子	栗林徳重	三澤由美子	結城和広	瀨川定自	新川正美	大教会長	大新山	大新山	大新山
御子	徳重善	正志	一和	敦敏	知夫	雅正	入人	入人	入人
斎三郎	桐谷善広	清田信	遠藤明	小松篤志	三幣正志	結城和広	青山聖子	古光	古光
實子	美沙也	真喜	徳喜	篤志	重正	三幣正志	三幣正志	三幣正志	三幣正志
宗子	知代	加	加	加	加	加	加	加	加
瀨川	菅原	永井	三澤	真安	眞田	三村	奥野	眞田	眞田
祐真子	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸	幸幸